

第27期火災予防審議会人命安全対策部会 第1回部会 開催結果

1 日 時

令和7年7月30日（水） 午前10時42分から午前11時15分まで

2 場 所

スクワール麹町 3階 華の間

3 出席者（二重線：リモート参加）

（1）委 員（敬称省略：五十音順）

青木 成昭、池畠 由華、大宮 喜文、唐沢かおり、佐野 友紀、鈴木 恵子、
野口 貴文、長谷見雄二、福島由紀子、藤井 皓介、藤野 珠枝、古川 容子、
水野 雅之、峯岸 良和、吉岡 英樹

（計15名）

（2）東京消防庁関係者

予防部長、参事兼予防課長、予防部副参事（予防技術担当）、消防係長、建築係長、
消防設備係長、予防対策担当係長、自衛消防係長、係員（3名）

（計11名）

4 議 事

（1）審議・検討の方針

（2）小部会の設置及び構成

（3）会議開催スケジュール

5 資料一覧

- （1）第27期火災予防審議会人命安全対策部会 委員名簿…………… 資料1
- （2）第27期火災予防審議会人命安全対策部会 諮問の背景…………… 資料2
- （3）小部会の設置及び小部会委員構成（案）…………… 資料3
- （4）第27期火災予防審議会人命安全対策部会スケジュール…………… 資料4
- （5）防火管理指導指針の抜粋…………… 参考資料1
- （6）予防事務審査検査基準の抜粋…………… 参考資料2

6 議事要旨

【事務局】

資料1から資料4の説明を行った。

【委員】

貴重なご説明、大変ありがとうございました。それでは、私から1点だけ質問をさせていただきます。高層建築物を対象とされるということで、特に高層階からの避難を考える際に、いわゆる避難弱者といわれる方々に対する考え方、ケアといったところも今後大変重要になってくるかと思うんですが、今回の部会及び小部会では、どこら辺まで避難弱者に対する検討を進めていただく予定でしょうか。よろしくお願いいたします。

【事務局】

事務局より説明をさせていただきます。ご質問ありがとうございました。委員のおっしゃる通り、高層建築物における災害弱者の避難方法というものは非常に重要な課題だと認識はしております。今回、この高層避難の避難戦略ということで、災害弱者の方の対応というものも特に制限を設けず、まずは幅広にいろいろ検討を進めさせていただき、調査のほうを進めさせていただきたいと考えております。その中で最終的な方向性として、2年間でどの位置まで辿り着けるかというところは、進行によってまた変わってくるかと思しますので、その都度、検討をいただきたいと思いますと考えております。以上でございます。

【委員】

今の質問とも関係するんですけども、高層・大規模な防火対象物は用途がそれぞれあると思うんですが。私の住んでいる地域でも、20階以上の高層住宅は非常に増えております。用途別に考えることは違うんじゃないかと思うんですけども、ここに出ている数字等で用途別の統計はあるのでしょうか。また、それぞれに対して別々のというか、共通する部分もあると思いますが、違う部分もあると思うんですが、別々のことを考える予定でしょうか。以上でございます。

【事務局】

はい、事務局から説明をさせていただきます。用途ごとのデータもございますので、小部会のほうでデータを提供させていただきまして、審議の中で揉んでいただきたいと思いますと思っています。

また、2点目の用途ごとに対策は違うのではないかというご指摘ですけども、全くその通りだと我々も考えております。そこも最初は幅広にいろいろな用途についてどうなのか

というのは調査を踏まえながら幅広く検討をしていきたいと思っております。ただ、先ほども事務局のほうから回答させていただきましたけれども、2年間という制約がありますので、最終的な落としどころについては個別、具体的に特定の用途に絞るという方向もありなのかと現在のところは考えておりまして、その辺りも踏まえまして、皆様方からのご意見を頂戴いたしたいと考えているところでございます。以上でございます。

【委員】

7ページ目に非常に貴重な令和6年の状況ということで、今後、ご検討あるいはデータが出てくるのかなと思うんですが、具体的な避難の状況とか誘導の状況とか、もしおわかりでしたら、できるだけ詳しくご説明いただけると、今後、役立つなと思いました。現時点で何かはおわかりのことがもしあればお聞きできればと思います。以上になります。

【事務局】

ご質問ありがとうございます。それでは事務局から回答をさせていただきます。7ページ目の令和6年度の火災事例の詳細ということでございますけれども、ただいま事務局のほうでデータを収集しているところでございます。最初の小部会に、この中の一部の事例について消防側で今持っている情報について整理をしたもので、お出しできるものをお示しできればということで準備をしているところになりますので、今後の議論の中で、またご審議をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

【委員】

ご説明ありがとうございます。先ほどの弱者対応のご質問と関連することですが、今回、包括的な指針や計画を立てられるということで、避難戦略の策定を順序だてて進めていかれると思いますが、弱者対応という場合に、予測し得ないと言いますか、現場での事故などは、このように避難誘導をしていこうというプラン、あらかじめ想定していたところから外れたことが起こる可能性もあるのではないかと思います。このようなことに対しては、事例の収集でありますとか、どこまで現場で柔軟に対応するのかということを考慮した計画の検討もあり得て、なかなか難しいところもあるかと思いますが、このようなことを踏まえて、有効性のある指針や計画にしていくにあたって、どう進めていかれるのかお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

事務局から回答させていただきます。ご指摘の通りだと思っておりまして、海外事例でも非常に困難な事例があつて、そういった時にどういった行動があるのかというのをフェールセーフも考えて、しっかりと検討をしていきたいと思っております。

【議長】

その他、いかがでしょう。諮問のほうはよろしいですか。

他にないようでしたら、一つだけ細かいことなんですけれども、先ほど委員がご質問をされた7ページの非常に貴重な事例なんです、8ページに今の避難の誘導の現況があって、多分ぼやで終わっているんで、出火階と直上階の避難かと思うんですが、その場合の避難者のレベルで、実態として、これはそういう数字になっていると考えてよろしいんですか。

【事務局】

回答させていただきます。必ずしもこの通りに避難をしているということではありません。あくまでもの8ページのものについては目安を示したものであって、実際の避難事例がこの通りに行われているということではありません。

【委員】

私は建築を設計する立場からの防火避難を考えているんですが、それをやっていると、消防活動をどういうふうにされているのかとか、建物の方が実際にどういう誘導をされているのか、あとは設備が実際にどういうふうに動いているのかが意外とわかっていなくて、何かそういう情報をもう少し議論をしている中でいただけたほうがいいなということを、今、話を聞いていて思いました。例えば9ページ目の自火報の警報設備、例えば鳴動シーケンスなんですけれども、確かに設備としてはこういう動き方をするんですけれども、ここに人が介在すると多分違う状況になると思うんです。特にマイクを持ち出して放送してしまうと、全館一斉放送になる前にマイクで話し始める。そうすると、全館の人に一斉に避難してくださいとは多分言わなくなるみたいな。で、それが多分その指導の中の8ページ目の動き、これを本当にやっているのかとかがわからなかった。あとは11ページの消防活動で、エレベーターで1階下の階に降りて、それで階段を登っていくようにやって、ホースも何か下の階から繋げるみたいなことがあって、その考え方とか、何でそういうふうになっているのかというのが意外によくわかっていないので、この議論の中で情報をいただけると、議論も深まるのかなと思いました。以上です。

【事務局】

ありがとうございました。事務局から回答させていただきます。ご指摘の通りかと思うますので、その辺りがしっかりとわかるような資料を小部会のほうに提案させていただき、皆様方に議論をいただきながらご意見をいただければと思いますので、次回の小部会までに整理をさせていただきたいと思います。

【議長】

はい。よろしく。他はよろしいでしょうか。

今、消防庁のほうからもありましたように、小部会で議論をいただいたものを、またこの部会に上げていただくことになりますので、そういう意味では準備を整えていただいて、また次回ご検討いただければと思いますのでよろしくお願いします。